平成２２年度北方領土問題教育指導者現地研修会報告書

富山県黒部市立生地小学校
教　諭　　矢　木　浩　樹

８月１８日（水）

１　合同開会式

（１）主催者挨拶　北方領土問題対策協会理事長　間　瀬　雅　晴　氏
（２）来賓挨拶　　根　　室　　市　　長　　長谷川　俊　輔　氏
（３）歓迎挨拶　　根室市小中学校校長会会長　　臼　井　　茂　氏

２　講話

（１）「根室管内における北方領土教育の取組みについて」

根室管内北方領土学習研究会
中標津町立中標津中学校　教諭　丹野　聡　氏

・「北方領土を学ぶ」、「北方領土で学ぶ」ということが印象に残った。
まず「北方領土を学ぶ」では、「感情論」だけでなく、「事実認識」が必要であるということがわかった。元島民への共感などはもちろん大切であるが、北方領土が日本固有の領土で、現在は不当に占拠されていることを日本は国として主張していることを、将来を担う青少年に伝えていかなければならないということを日本国民の一人として感じた。
「北方領土で学ぶ」では、北方領土（問題）を通して、子どもたちにつける力は何なのか考えていかなければならないと感じた。世界との協調や平和学習への広がりなど社会を見る目をしっかり育てていかなければならないと感じた。
　また、北方領土の元島民が居住している黒部市。小学校の新学習指導要領でも、我が国の領土として北方領土について明記されたこともあり、小学校からの北方領土学習について系統性をもって取り組んでいく必要性を感じた。そして、小学校の社会科の授業の中での実践をさらに充実させながら中学校との連携を考えていかなくてはいけないと感じた。

（２）「北方領土問題教育者会議の活動と実践取組みについて」

熊本県北方領土問題教育者会議　常任理事
熊本市立日吉中学校　　教頭　　井手　正昭　氏

・　熊本県の取組みについての話を聞くことができた。その中で、生徒・保護者の方へのアンケート結果が驚きであった。しかし、それが現実であろう。元島民が多いここ黒部でも同じ結果になると思われる。まずは児童・生徒に、そして保護者へも正しい認識をもってもらいたいと感じた。そのためにも、この地で学んだことを同僚、そして地域へ発信していきたいと感じた。

３　元島民の体験談

色丹島出身　得能　宏　さん

・　得能さんのお話をお聞きし、ソビエト連邦が一方的に島を不法占拠したことに改めて憤りを感じた。また、占領時の様子やその後のくらしについても憤りを感じずにはいられず、一日でも早く北方領土を返還してもらいたいと強く感じた。
　また、これは「故郷の奪還」なんだ、という話に心打たれた。「民族の尊厳」という言葉も使われていたが、元島民の方の問題ではなく日本人の問題として、これから日本を支えていく青少年に対して、北方領土問題を風化させることのないように実践を図っていきたい。

４　地元中高生の弁論発表

・　中高生の弁論発表では、中学校３年の武隈さん、高校２年の牧野さんの発表であったが、北方領土問題を自分たちの生活の中で身近な問題としてとらえ、返還運動に積極的に取り組んでいこうとする思いに心から引き込まれた。多くの方々に彼らの発表を聴いてもらいたいと感じた。と同時に、黒部の中高生たちにも北方領土問題について考え、返還運動に関わっていこうとする心情を育てていきたいと感じた。

５　報告「色丹島を訪問して」（平成２１年度訪問事業参加教諭）

兵庫県三田市立ゆりのき台中学校　教諭　　王子　明紀　氏

・　色丹島の現在の様子を知ることができた。北方領土に居住しているロシアの人々との交流が着実に実ってきている様子を伺い知ることができた。

６　北方領土模擬授業

第１グループ（地理）　長崎県長与町立長与第二中学校　教諭　　鬼塚　喜隆　氏

・　中学校１年生を対象とした授業であった。導入では、北方領土について関心をもたせるために、写真を効果的に使っていた。そして、終末には北方領土以外にも領土に関する問題があることを紹介し、社会を見る目を広げるものであった。北方領土で学ぶ学習として、とても参考にできる授業であった。

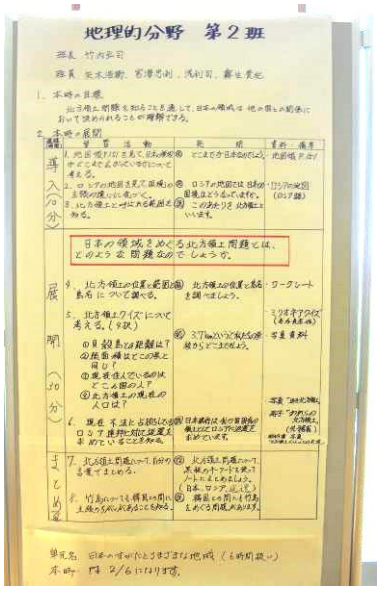
７　納沙布岬から北方領土を視察、「北方館」見学

・　当日は天候にも恵まれ、歯舞群島・国後島を一望することができた。とても貴重な体験ができたと同時に、こんな近い島を見るだけで訪問できないことに再度憤りを感じた。隣接している「北方館」においては、古地図、条約、陳情書、古文書等の展示資料から歴史的経緯を知ることができた。

８月１９日（木）

８　授業構成案づくり

・　午前、午後にわたって、地理の第２グループに所属し、授業構成案づくりに取り組んだ。ねらいは、「北方領土問題を知ることを通して、日本の領域は他の国との関係において決められることが理解できる。」である。通常ならば、領土や領域についてしっかりとおさえた段階で北方領土問題などに目を向けるものであろうが、５０分では時間的に厳しいということが出され、北方領土問題を切り口として、領土・領域について学習していく形をとろうということになった。そこで本時では、まず地図帳で日本の領土を確認し、その後ロシアの地図を提示する。子どもたちは国境の違いを感じ、そこで、「ずれ」が生じ、関心をもって北方領土について調べるであろうと考えた。そして調べた後は、北方領土を不法に占拠しているロシアに対して返還を求めていることを知り、北方領土問題について自分の言葉でまとめ、竹島についても韓国との間に主張の違いがあることを知り、ねらいに迫るようにしたいと考えた。



・　地理、歴史、公民の各グループの構成案については、ポスターセッション形式で発表を聞いた。